

ッセージも数百、受け取りました。信じられないことでした。

審査員と聴衆の判断が、なぜにこれ程異なるのでしょうか？

審査員は限られた日数の中で30人かそれ以上の数の演奏を聴かされます。良い演奏を聴き逃してしまうこともあるでしょう…いずれにしても、私の人生に於いて、既に過去のことです。今は人前で演奏が出来るチャンスを受けたことに感謝していますし、自分のツアーに集中するのみです。

演奏を通じて、一番伝えたいメッセージは？

ここ10年程で、音楽の世界も随分変わりました。個人的には『創造のゴミ』と呼んでいます。何かを創りあげることに、莫大な費用がかけられる時代です。例えばハリウッド映画なんかで、特殊効果やCGに膨大なお金がかけられる。そのくせ画面に現れるのは僅か2分間。そしてその2分間は観終わった後、観客の記憶にすら残らないものばかり。皆、大ヒットを打って一発で大儲けすることばかりを考えているようです。これでは本物から離れていくばかり。

クンツさんにとっての『本物』とは？

本物とは、敢えて困難な道を選ぶということです。演奏家は、スターになりたい、と常にプレッシャーにさらされています。でもそのやり方では自らを見失ってしまう。トルストイも言っています『船を漕いで対岸に渡ろうとするならば、まずは川上を目指せ。さもなければ川の流りに飲まれて一気に下流に流されてしまいうだろう。上を目指さずして、目標の岸には辿り着けない』と。

本を売るよりビールを売り歩いた方がお金になる時代です。バッハを弾くよりも、YouTubeでおかしな動画を流して話題になるほうが、お金になる。そんな時代だからこそ、そう信じています。

演奏家として活動をしていく上で、大変なことは？

演奏活動を続けられることはかけがえのないことです。しかし今1シーズンにつき60コンサート程をかかえています。それはつまり1年の内丸3~4か月は家に居られないということ。家族と、そして子供と時間を過ごせないということです。モスクワの後にもクンブリッジ（イギリス）、そしてブカレスト（ルーマニア、奥様の実家）と引っ越しを繰り返してきた私の人生は、いわば「移民生活」でした。いつも孤独だった。周りは常に違う言語を話していた。でも、一か所にずっと居られることが良いのかどうかも、わかりません。

孤独との闘いでもある、音楽家としての人生。音楽に、人生を呑みこまれてしまう…と感じたことはありませんか？

もちろん、ありますよ。でもステージの上では自分の感情をコントロールするのです。私はこのやり方で20年以上演奏家としてやってきましたし、それがプロフェッショナルというものだと思っています。

自分の存在の意味、自分のことは。全てに於いて自分を受け入れていなければ、表現したいことを伝えき

ることはできません。感情はもちろん大切です。しかしそれを最大限表現するためには、的確に練り上げ、組み立てることが必要。例えば腕の立つ料理人は、その料理に舌鼓を打たせつつも、どんな下ごしらえをしたかは、決して悟らせない。全ては完璧なタイミングと訓練、そしてタマネギなんかの食材です（笑）

生演奏の素晴らしさとは？

リハーサルでは決して得ることのできないことが、生のコンサートでは存在します。舞台とピアノが在るだけではなく、そこには聴衆が居てくれて、その存在は演奏者と楽器の存在と同じだけ、重要なのです。だから、私はスタジオ録音が嫌いなのです！

聴衆に囲まれて演奏をするとき、そこにはたくさんの人達の生きた呼吸が聴こえる。その息遣い、反応は、決して嘘をつかない。同じ場所で2回公演をしても、聴衆が変わればそれはまた違う街で弾くのと同じだけ、変わるものです。



↑ 自宅で素敵な家族に囲まれて。

【参照】

“Exclusive Interview with Eduard Kunz” :

Chopin Society of Atlanta

“Eduard Kunz - Just another Russian space conqueror?” :

Romania-Insider.com

音楽の素晴らしい点？ それは簡単。過去の偉大な音楽家たちも全て、たった一つのことを表現する為に追究していたんだよ。それは「愛」。絵画、音楽…人間が創り出した全ての芸術に於いての唯一のテーマが愛。それ以外にはないよ。(エドゥアルド・クンツ)

エドゥアルド・クンツ ピアノリサイタル

【プログラム】

バッハ：平均律クラヴィーア曲集 第1巻より

ベートーヴェン：ソナタ第21番 八長調

Op.53「ワルトシュタイン」

ラフマニノフ：ソナタ 第2番 変ロ短調 Op.36

10月14日(土) 18:00 開演 (17:30開場)

一般¥3,500 / 学生¥2,100 全指定席

[チャリティーシート¥3,850 / ハーフ60 ¥2,100]

ご予約は宗次ホールチケットセンターへ

☎052-265-1718(10:00~16:00 ※一部例外有)